



ルナティック

クビんげちゃん!

R18
成人向



その日

タケノコ採り
に入った
竹林道で



荷ヒモの切れた
荷物の横に
座り込んで

立往生している
小さな女の子が
いた



なんと永遠亭の
鈴仙さんだという

確かに
見覚えある
行商の荷物と
服装だったが

身長は普段より
頭2つ分は低い

どこから見ても
こどもなのだ

はじめは何かの
イタズラかと
思ったが…



聞くと
八意先生の
薬による事故
だという

治験用の薬を
飲んで起きたら
この姿になって
いたそうだ

先生が怪しい薬を
作ってるという
噂はあったが

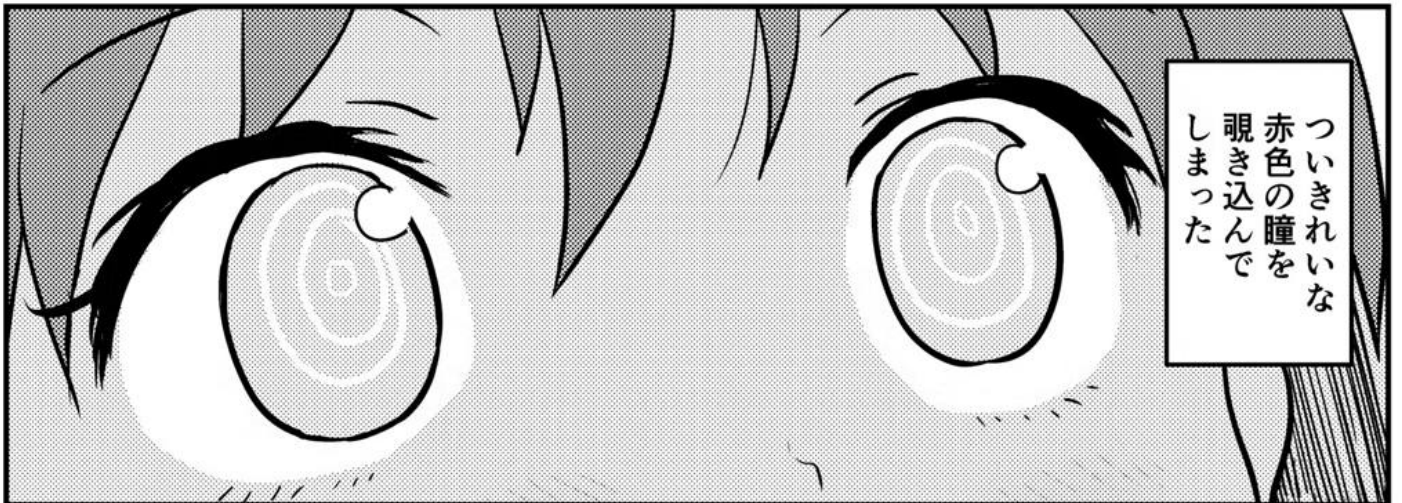
まさか
本当にマッド
サイエンティスト
だったとは…

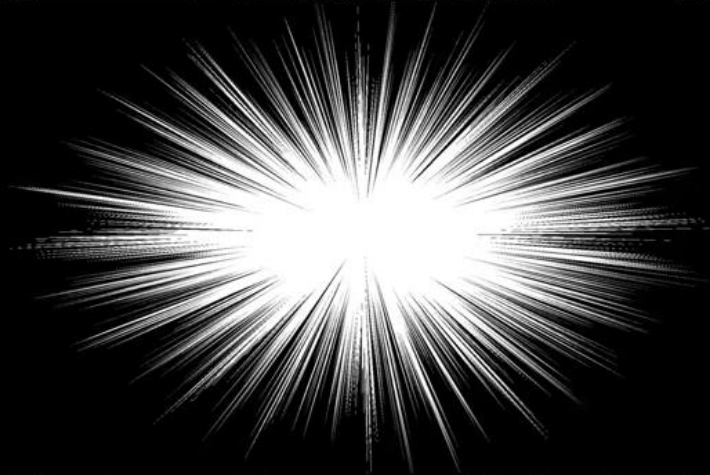


信じがたい話だが
仕草まで鈴仙さん
そのものだ

少し抜けて
いるところまで
そのまま

子供服はなぜか
永琳先生が出て
きたそうだ：
（本当に事故
だったのか？）







気が
付いた時

私は彼女の
小さな身体を
押し倒していた

下腹が熱い

私は何を
してるんだ

自分の中の何かが
剥き出しになって
いるのを自覚する



それはずっと
隠し続けてきた
欲望



里の中で平穩に
生きるため

心の奥に
押し殺していた
渴望だった



衝動が
肉体を突き
動かしていた

豆粒のような
乳首を指先で
こねくりまわし



薄い胸の皮膚と
その下の骨を
愉しむ



やがて肌が
しっとりとし
汗ばみ始めた



こども

こどもの
からだ！

ずっとこう
したかった

犯したい

滅茶苦茶に
したい



夢中で
幼いふくらみに
しゃぶりつく

頬ずりし
舐めまわし

跳ね上がる
腰を押さえつけ
ワレメの中を
まさぐる



丹念に中を
指と舌で
掻きまわし

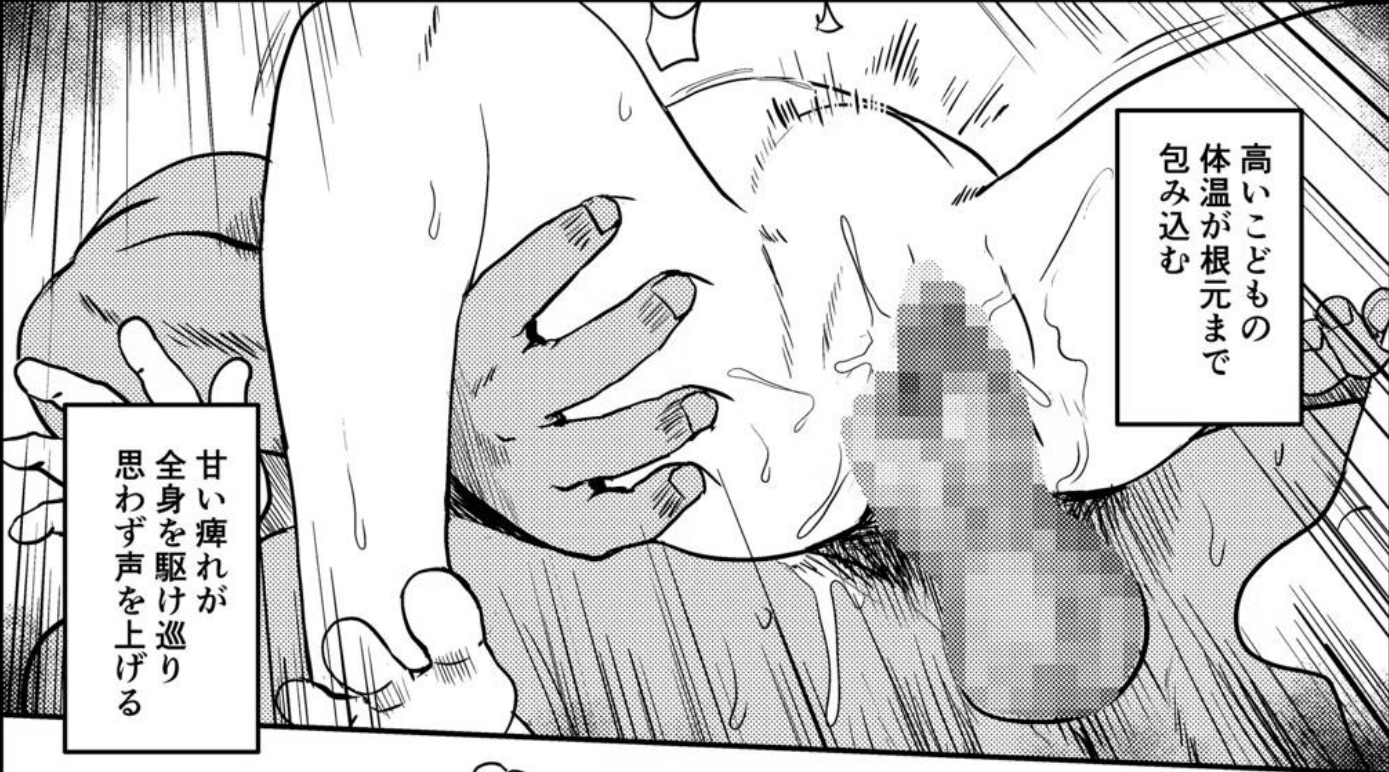
やがて
身体から抵抗が
失せると

ひくつく
小さなワレメに
肉棒を押し当てた



石のように固く
勃起したものを
一気に突き入れる

竹林に悲鳴が
響き渡った



高いこどもの
体温が根元まで
包み込む

甘い痺れが
全身を駆け巡り
思わず声を上げる



突き抜ける快感に
気を失いそうに
なりながら

無我夢中で
腰を振り続けた



熱い粘膜の感触に
前立腺が痙攣
しはじめる

ひときわ
腰を奥まで
突き入れると



獣のように
雄叫びながら
欲望の塊を
ぶちまけた

視界が白くなり
気が遠くなる

射精が止まらず
おびただしい量の
精液が流れ落ちた



私は正気を
取り戻していた

「目」の影響が
失われたの
だろうか



どのくらい
経っただろう



鈴仙さんは
気を失っていた

介抱しなくては

謝罪すれば
きっと彼女は私を
責めないだろう

自分の力の
暴走のせいだと





だが私は
迷うことなく

再び彼女の
幼い身体に
貪りついてた





今や
自分の意思で
こどもを
犯しながら

私はこの上ない
解放感を
感じていた

彼女の「目」が
キツカケだがもう
どうでもよかった

私は自覚して
しまったのだ

彼女は朦朧とした
意識の中
謝り続けていた

ごめんさー

本当に
優しい子だ

ごめんさー

でも
いいんだよ
鈴仙さん

これが

本当の私
なんだから

奥付

ルナティックうどんげちゃん！

■発行日 2026/5/31 東方名華祭20
2026/8/16 第二版

■印刷 株式会社 日光企画 様

■発行 こまねすと

■発行人 クックロビン

■連絡 komanest.contact@gmail.com
pixiv: id=16186655
X: @Cock_Robin_4



Pixiv



X

※この物語はフィクションです

実在の人物や団体、出来事などとは一切関係ありません。

18歳未満や現実との区別のつかない方の購入、閲覧を禁止します。

無断転載、複製複写、WEBへのアップロードご遠慮ください。



こまねすと
Koma-nest